

表-10 底生動物調査で採集した貝類

腹 足 類	斧 足 類
カネコチグサ	サザナミマクラガイ
ニシキウスガイ科の一種	フネガイ科の一種
キスダタミ	リュウキュウサルボウ
リュウテン科の一種	ウグイスガイ科の一種
クサイロカノコガイ	カブラツキガイ
アマオブネ科の一種	カワラガイ
イトカケガイ科の一種	アサザルガイ
オハグロモドキ	ザルガイ科の一種 (A)
スイショウガイ科の一種 (A)	" (B)
" (B)	
タマガイ科の一種	リュウキュウアサリ
アラゴマフダイ	リュウキュウバカガイ
ヨウバイモドキ	ヒメニッコウガイ
ミノガイ科の一種	
キセワタ科の一種	
ウキヅツ	

4. 魚礁効果調査

1982年5月4日にヒューム管魚礁を、8月31日に1.5m角型魚礁を調査した。ヒューム管魚礁は1976年3月、水深4~5mの砂泥底に66個設置したものである。また1.5m角型魚礁は、1981年11月、水深約13mの砂泥底に32個設置したもので、これは二段積みとなっている。

ヒューム管魚礁は、埋没がかなり進んでおりヒューム管の口径の2/3以上が砂泥下に埋まっているものが多く、以前の報告(沖水試八重山支場・1981)同様今回も蛸集魚が少なかった。ヒューム管内には、アヤマエビス(15cm)、ナシウ(20~30cm)が生息していた。前者は管内に浮遊してじっとしているが、後者は壁面に接触して静止していることが多かった。クロハギ(20cm)、ヒブダイ(25cm)、ヒメアイゴ(20cm)、オキフエダイ(25cm)、シロクラベラ(35~40cm)、マジリアイゴ(20cm)はヒューム管周囲、管内を泳ぎまわっていたが、観察者が接近するとヒューム管内やヒューム管どうしの間隙に逃げ込む。またヒューム管の極く近くには、ミスジリュウキウスズメ、クロリボンスズメダイ、ミツボシキウセンなどの小型魚がみられた。

1.5m角型魚礁の蛸集魚と蛸集状況を表-11に示した。設置後2~3ヶ月後の観察では、冬の魚類相の貧弱になる時期にあつたこともあり蛸集魚が少なかったが(沖水試八重山支場・1982)、今回は設置後約10ヶ月経過し、夏に調査を実施したので予想通り蛸集魚が増加していた。魚礁周辺で18種の魚類を観察しているが、タカサゴ、イッセンタカサゴ、ヨスジフエダイ、ニセクロホシフエダイの幼魚とクロリボンスズメダイの5種が多くみられた。タカサゴ、イッセンタカサゴは混群を形成して魚礁の上方~魚礁の極く近く~魚礁内とかなり広く分布し、これらの空間を泳ぎまわっていた。それに比較しヨスジフエダイ、ニセクロホシフエダイ、クロリボンスズメは、魚礁に対する依存性が強く魚礁から余り離れることはなかった。ヨスジフエダイ、ニセクロホシフエダイの2